

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 3 月 30 日 (2006.3.30)

【公表番号】特表 2005-516996 (P2005-516996A)

【公表日】平成 17 年 6 月 9 日 (2005.6.9)

【年通号数】公開・登録公報 2005-022

【出願番号】特願 2003-565503 (P2003-565503)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/22 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 3/04 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

G 0 1 N 33/15 (2006.01)

G 0 1 N 33/50 (2006.01)

C 0 7 K 7/06 (2006.01)

C 0 7 K 7/08 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 37/24 Z N A

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 3/04

A 6 1 P 43/00 1 1 1

C 1 2 Q 1/02

G 0 1 N 33/15 Z

G 0 1 N 33/50 Z

C 0 7 K 7/06

C 0 7 K 7/08

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 2 月 7 日 (2006.2.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

脂質動員ホルモンを含む、脂質、グリコーゲン又は双方の可動化のための医薬組成物。

【請求項 2】

1 以上の製剤的に許容される担体をさらに含む、請求項 1 の医薬組成物。

【請求項 3】

ホルモンがそのアミノ末端にピログルタミン酸残基、グルタミン酸残基又はグルタミン残基を有するポリペプチドである、請求項 1 の医薬組成物。

【請求項 4】

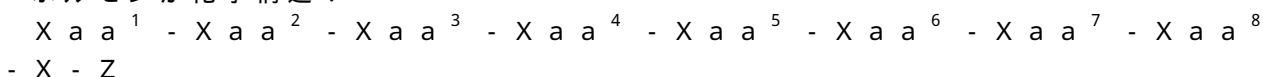
ホルモンが遮断カルボキシル末端を有するポリペプチドである、請求項 1 の医薬組成物。

【請求項 5】

ホルモンが、脂質可動化を促進するその能力がプロパノロールによって有意には阻害されないことを特徴とする、請求項 1 の医薬組成物。

【請求項 6】

ホルモンが化学構造：



[式中：

$X a a^1$ は、ピログルタミン酸残基、グルタミン酸残基又はグルタミン残基であり；

$X a a^2$ は、ロイシン残基、イソロイシン残基、バリン残基、フェニルアラニン残基、およびチロシン残基の 1 つであり；

$X a a^3$ は、アスパラギン残基およびスレオニン残基の 1 つであり；

$X a a^4$ は、フェニルアラニン残基およびチロシン残基の 1 つであり；

$X a a^5$ は、スレオニン残基およびセリン残基の 1 つであり；

$X a a^6$ は、プロリン残基、セリン残基、スレオニン残基、およびアラニン残基の 1 つであり；

$X a a^7$ は、グリシン残基、アスパラギン残基、セリン残基、アスパラギン酸 (aspartate) 残基、バリン残基、およびトリプトファン残基の 1 つであり；

$X a a^8$ は、トリプトファン残基であり；

X は、0 ~ 10 のアミノ酸残基であり；並びに

Z は、水素基およびカルボキシル末端遮断部分の 1 つである]

を有する、請求項 1 の医薬組成物。

【請求項 7】

$X a a^1$ が、ピログルタミン酸残基、グルタミン酸残基又はグルタミン残基であり；

$X a a^2$ が、ロイシン残基又はバリン残基の 1 つであり；

$X a a^3$ が、アスパラギン残基およびスレオニン残基の 1 つであり；

$X a a^4$ が、フェニルアラニン残基であり；

$X a a^5$ が、スレオニン残基およびセリン残基の 1 つであり；

$X a a^6$ が、プロリン残基、セリン残基、スレオニン残基およびアラニン残基の 1 つであり；

$X a a^7$ が、グリシン残基、アスパラギン残基およびセリン残基の 1 つであり；

$X a a^8$ が、トリプトファン残基であり；並びに

X が、グリシン残基である、請求項 6 の医薬組成物。

【請求項 8】

$X a a^2$ が、ロイシン残基、およびバリン残基の 1 つであり；

$X a a^6$ が、プロリン残基、セリン残基、およびスレオニン残基の 1 つであり；

$X a a^7$ が、グリシン残基、アスパラギン残基、およびセリン残基の 1 つであり；

$X a a^8$ がトリプトファン残基であり；

X が、0 ~ 3 のアミノ酸残基であり；並びに

Z が (- N H₂) 基である、請求項 6 の医薬組成物。

【請求項 9】

$X a a^4$ がフェニルアラニン残基である、請求項 8 の医薬組成物。

【請求項 10】

X が 0 のアミノ酸残基であり；そして

Z が (- N H₂) 基である、請求項 6 の医薬組成物。

【請求項 11】

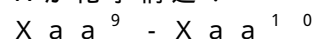
X がグリシン残基である、請求項 6 の医薬組成物。

【請求項 12】

Z が (- N H₂) 基である、請求項 11 の医薬組成物。

【請求項 13】

X が化学構造：



[式中：

Xaa^9 は、グリシンであり；そして

Xaa^{10} は、スレオニン残基、グリシン残基、トリプトファン残基、セリン残基、およびアスパラギン残基の 1 つである]
を有する、請求項 6 の医薬組成物。

【請求項 14】

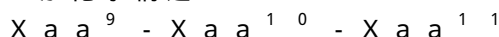
Xaa^{10} がスレオニン残基である、請求項 13 の医薬組成物。

【請求項 15】

Z が (-NH₂) 基である、請求項 13 の医薬組成物。

【請求項 16】

X が化学構造：



[式中：

Xaa^9 は、グリシンであり；

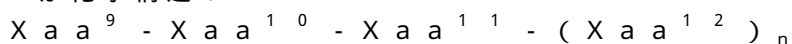
Xaa^{10} は、スレオニン残基、グリシン残基、トリプトファン残基、セリン残基、およびアスパラギン残基の 1 つであり；並びに

Xaa^{11} は、リジン残基である]

を有する、請求項 6 の医薬組成物。

【請求項 17】

X が化学構造：



[式中：

n は、0 ~ 7 であり；

Xaa^9 は、グリシン残基であり；

Xaa^{10} は、存在するとき、スレオニン残基、グリシン残基、トリプトファン残基、セリン残基、およびアスパラギン残基の 1 つであり；

Xaa^{11} は、存在するとき、リジン残基であり；並びに

それぞれの Xaa^{12} は、存在するとき、任意のアミノ酸残基である]

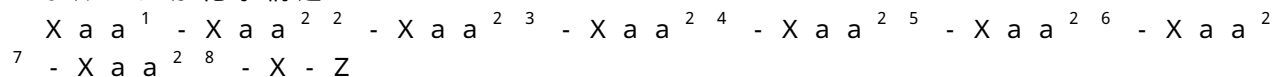
を有する、請求項 6 の医薬組成物。

【請求項 18】

X がグリシン残基であり、Z が水素基である、請求項 6 の医薬組成物。

【請求項 19】

ホルモンが化学構造：



[式中：

Xaa^1 は、ピログルタミン酸残基、グルタミン酸残基又はグルタミン残基であり；

Xaa^{22} は、非極性側鎖を有するアミノ酸残基であり；

Xaa^{23} は、非イオン性の極性側鎖を有するアミノ酸残基であり；

Xaa^{24} は、芳香族側鎖を有するアミノ酸残基であり；

Xaa^{25} は、非イオン性の極性側鎖を有するアミノ酸残基であり；

Xaa^{26} は、任意のアミノ酸残基であり；

Xaa^{27} は、任意のアミノ酸残基であり；

Xaa^{28} は、芳香族側鎖を有するアミノ酸残基であり；

X は、0 ~ 10 のアミノ酸残基であり；並びに

Z は、水素基およびカルボキシル末端遮断部分の 1 つである]

を有する、請求項 1 の医薬組成物。

【請求項 20】

Xaa^{26} が、プロリン残基、セリン残基、スレオニン残基、およびアラニン残基の 1 つである、請求項 19 の医薬組成物。

【請求項 21】

X a a ^{2 7} が、グリシン残基、アスパラギン残基、セリン残基、グルタミン酸残基、バリン残基、およびトリプトファン残基の 1 つである、請求項 19 の医薬組成物。

【請求項 22】

Z が (- NH₂) 基である、請求項 19 の医薬組成物。

【請求項 23】

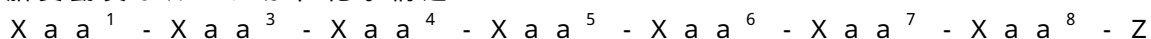
X が 0 のアミノ酸残基である、請求項 22 の医薬組成物。

【請求項 24】

X がグリシン残基であり、Z が水素基である、請求項 19 の医薬組成物。

【請求項 25】

脂質動員ホルモンが、化学構造：



[式中：

X a a ¹ は、ピログルタミン酸残基、グルタミン酸残基又はグルタミン残基であり；

X a a ³ は、アスパラギン残基およびスレオニン残基の 1 つであり；

X a a ⁴ は、フェニルアラニン残基およびチロシン残基の 1 つであり；

X a a ⁵ は、スレオニン残基およびセリン残基の 1 つであり；

X a a ⁶ は、プロリン残基、セリン残基、スレオニン残基、およびアラニン残基の 1 つであり；

X a a ⁷ は、グリシン残基、アスパラギン残基、セリン残基、アスパラギン酸残基、バリン残基、およびトリプトファン残基の 1 つであり；

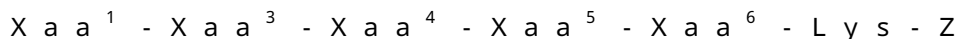
X a a ⁸ は、トリプトファン残基であり；並びに

Z は、水素基およびカルボキシル末端遮断部分の 1 つである]

を有する、請求項 1 の医薬組成物。

【請求項 26】

脂質動員ホルモンが、化学構造：



[式中：

X a a ¹ は、ピログルタミン酸残基であり；

X a a ³ は、アスパラギン残基およびスレオニン残基の 1 つであり；

X a a ⁴ は、フェニルアラニン残基およびチロシン残基の 1 つであり；

X a a ⁵ は、スレオニン残基およびセリン残基の 1 つであり；

X a a ⁶ は、プロリン残基、セリン残基、スレオニン残基、およびアラニン残基の 1 つであり；並びに

Z は、水素基およびカルボキシル末端遮断部分の 1 つである]

を有する、請求項 1 の医薬組成物。

【請求項 27】

ホルモンが配列番号 1 ~ 40 からなる群より選択されるアミノ酸配列を有するポリペプチドであって、ここで該ポリペプチドのアミノ末端残基は、グルタミン酸残基、グルタミン残基又はピログルタミン酸残基である、請求項 1 の医薬組成物。

【請求項 28】

ポリペプチドのカルボキシル末端がアミド化される、請求項 26 の医薬組成物。

【請求項 29】

ヒト又は他の哺乳動物における肥満の治療のための、請求項 1 の医薬組成物。